

## ちょっと気になるデータ

## 失業者の詳細についての統計

5月10日に総務省から「労働力調査(詳細集計)」の2016年1～3月期平均の結果が公表された。労働力調査の詳細集計は、労働力調査の対象となっている約4万世帯のうち1万世帯に追加的に調査される事項を、基本的な調査事項とあわせて公表されるもので、失業の実態や就業異動の状況など就業及び不就業に関する詳細な統計である。

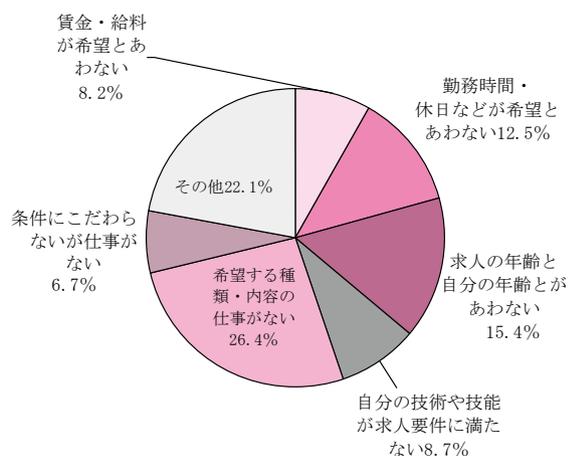
2016年1～3月期平均の詳細集計結果では、完全失業者は213万人で前年同期に比べて15万人の減少となっている。この失業者について、仕事につけない理由と失業期間をみよ。

## (失業者の仕事につけない理由)

完全失業者213万人について仕事につけない理由をみると、「希望する種類・内容の仕事がない」が26.4%<sup>注</sup>(55万人)と最も高く、次いで「その他」22.1%(46万人)、「求人年齢と自分の年齢とが合わない」15.4%(32万人)などとなっている。男性では「希望する種類・内容の仕事がない」が30.5%と最も高く、女性では「勤務時間・休日などが希望と合わない」が24.1%と最も高くなっている。

年齢階級別にみると、「希望する種類・内容の仕事がない」はどの年齢階級でも2割～3割程度となっている。「求人年齢と自分の年齢とが合わない」は年齢階級が上がるほど高くなっており、55～64歳では3割強、65歳以上では半数以上となっている。

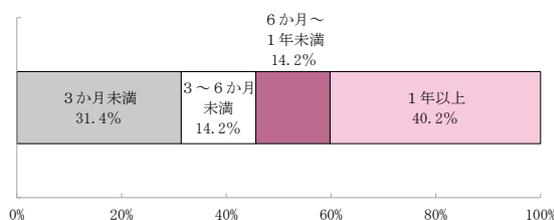
## 失業者の仕事につけない理由(2016年1～3月期平均)



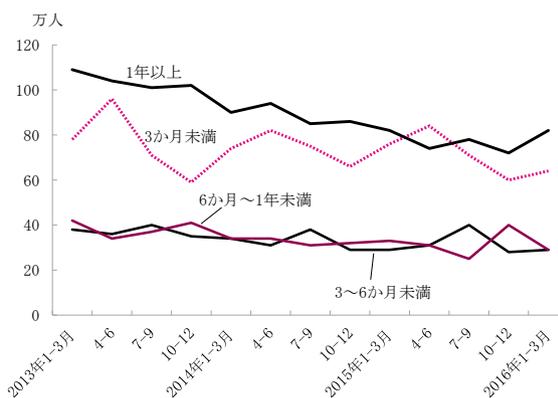
## (失業者の失業期間)

次に、失業期間別に完全失業者をみる。完全失業者213万人のうち、失業期間が「3か月未満」は31.4%(64万人)、「1年以上」は40.2%(82万人)となっており、完全失業者の4割は失業期間が1年以

## 失業期間別失業者数(2016年1～3月期平均)



## 失業期間別完全失業者の推移



上の者である。また、「1年以上」のうち52万人は「2年以上」となっている。

直近3年程度の推移をみると、「1年以上」は減少が続いているが、2016年1～3月は前年同期と同数となっている。「3か月未満」は2015年7～9月期以降前年同期と比べて減少している。

詳細集計では、この他にも、失業者の求職方法、前職の離職理由、前職の雇用形態・産業・職業などの統計が公表されており、失業者の詳細について知ることができる。

注 割合は内訳の合計に占める割合。以下同じ。

(調査・解析部)